

High ♥ Line Wakabayashi はいらいん若林

みんなでここさ

入らいん!

若林区まちづくり協議会会報

2009.2.1

Vol. 12



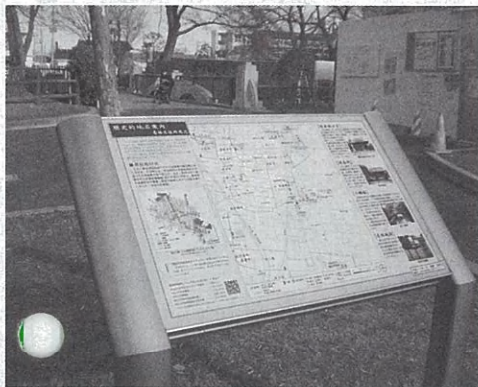
▲まち角ステッカー事業

私たちの住む若林区は、大昔から平地で、水が引きやすく、仙台平野の中でも、最も早くから開けた、中心的な場所だったと言われています。千数百年前の大豪族を偲ばせる遠見塚古墳、霞目付近には、東北最大の集落が、それ以前に存在したことも知られています。政宗の晩年の居城若林城跡の発掘調査も、第九次を終え城内の様々な施設が新たに発見されました。このように、若林区は、古代からの多くの史跡が見られる、真に歴史のある町なのです。区内のあちこちで目にする、町名・地名の表示や道しるべ。川に導かれた趣をもつ南染師町や舟丁、足軽衆の活躍が

古の姿が今も残る 歴史のまち

私たちの若林区には、地域の人々が培ってきた下町の人情があり、郷愁があります。これからの季節、やさしい風に吹かれながら、区内をゆっくり散歩してみませんか。
”もっと若林が好きになるかも知れません。”

優しい時間ときが流れる街、若林。



▲区内3ヶ所に建てられた歴史的地名説明板

また、若林区の恵まれた自然環境も見逃せません。深沼の海があり、貞山運河があり、区内を広瀬川も流れています。愛宕堰からは、六郷、七郷堀を始めとする用水路が網の目のように走り、東に広がる田園地帯を潤します。いわば、「水都わかばやし」でもあるのです。区内を縦横に流れる用水路の分かれ目に「水しるべ」の設置も始まりました。いつでも気軽に歴史の散歩が楽しめる環境が整いつつあります。

用水路が四方に走る 水のまち

目に浮かぶ石垣町や弓ノ町など、四百年前の歴史を手解きながら、のんびり歩く楽しみも、ここにはあります。



▲「日辺」あたり(「若林散歩マップ」Vol.4六郷より)
※「若林散歩マップ」は区役所1Fロビー、4Fまちづくり推進課で差し上げます。

徒歩と自転車が似合う エコのまち

そして、こんな若林区をさらに魅力的にしているのが、表情豊かな道の風景。道幅の広い新しい道路と調和して、今もなお昔のままの狭い古街道が静かな住宅地を貫き、区民の生活の中に彩りを添えています。古人の足音に耳をそばだてながら、東街道や奥州街道を、のんびりと散歩して過ごす一日も、いいかもしれません。至る所に散歩道が広がり平坦な地形の若林区は、徒歩と自転車が似合うエコの町のようなのです。

(菅井・志子田 記)

会報の愛称
「はいらいん若林」とは

仙台弁の「入らいん(お入りください)」に英語のhigh(ハイ・高い)とline(ライン・路線、進路などの意)とをかさねあわせた造語です。温かさとより高いレベルをめざそうという気持ちが込められています。

聞いて! 聴いて!!

ラヂオはいらいん若林

どんな番組なの!?

④「区民による 区民のためのラジオ番組」

私たち「若林区まちづくり協議会」の自主制作番組です。市民活動、文化とスポーツ、歴史と暮らし、伝統など、毎週様々なテーマで若林区の人々や地域の姿を紹介しています。

いつ放送しているの!?

⑤ 毎週土曜日夕方6時30分から
(再放送) 毎週火曜日午前11時から
FM76.2MHz

※若林区ではもちろん、仙台市内どこからでも聴くことができます!

インターネットでも番組が聴けます! 聴き逃した番組も今から聴けますよ!

「ラジオ3」ホームページにアクセス
トップページの「インターネットラジオ」をクリック
「Archive(アーカイブ)」から
聴きたい番組を選んで「PLAY」をクリック

番組と一緒に作ってみませんか!?

⑥ 番組と一緒に作ってくださる 区民スタッフを大募集!

興味のある方は、下記の問合せ先までご連絡ください。

《ラヂオはいらいん若林》への感想、ご意見をお寄せ下さい!!

若林区まちづくり協議会
問合せ先 事務局(若林区まちづくり推進課内)
TEL 022-282-1111 内線 6136-6137

取材を終えて

コミュニティ活性化に向けて取り組んでいる若林区まちづくり協議会制作の「ラヂオはいらいん若林」。その中心的な担い手の方々の取材をさせていただきました。予想をはるかに上回る4人の熱い想いと活躍。若林区に対する愛情がヒシヒシと伝わってきました。さらに、番組に協力いただいたメンバーは各地域で今、活躍中の方々ばかり。是非、読者の皆様にFMで、インターネットで、番組を聴かれる事をおすすめします。(編集部)



若林区民による 若林区民のための ラジオ番組

もっと、若林が好きになる!

FMラジオ76.2MHzで

ラヂオはいらいん若林 放送中!!

「コミュニティ」をテーマに、私たち「若林区まちづくり協議会」の自主制作による週刊ラジオ番組が始まっています。公募による区民スタッフが参加して、地元FM局のサポートを受けながら、番組の企画、シナリオ作りから取材やスタジオ収録まで…。今回は、地元若林区をこよなく愛する本番組の4人の制作チーフの方々に「若林区の魅力」についてお話しいただきました。



家庭ごみ有料化をきっかけに 地域コミュニティの活性化を!

平成二十年十月にスタートしたこの番組の、第一回を担当した澁谷氏を紹介いたします。

澁谷氏は、定年後もさまざまな仕事を仕掛け、現在は、区役所で働きながら、さらに活躍の場を広げています。中でも、町内会への取り組みは、ワフルで、その意気込みは人変なものです。そのきっかけはゴミ有料化説明会の段取りをしたことです。「説明会だけでも多分○○回は聞いていなくていいよ(笑)。不法投棄がなくならないなあ」と話していました。

澁谷氏の地域コミュニティに対する思いの二つに、町内に潜在している情報の発掘があります。あまり知られていない事柄を掘り出して共有し、地域の活性化に役立たいという願いです。また、使命感や責任感に燃えて貢献している町内会長さん方を評価し、町内会は、住民一人一人の「共同共栄体」という認識で前進すべきという思いも語られました。

地域コミュニティは、環境の年代層的にもそれぞれに違いがあり、課題は山積しているが、出来るだけ多くの人々の協力、参画を期待しながら、何か一つを突破口に、それを多角的に捉えて、いろいろな視点からメッセージを発信させていかなければと、ご自身の思いを熱く熱く話してくれました。(引地 記)



チーフ紹介▼▼▼
澁谷 昌昭氏

若林区への底知れぬ愛着が 番組作りの原動力に!

パーソナリティの人である矢尾研二氏からお話をうかがうべく、区内のあるコーヒショップで待ち合わせをしました。矢尾氏はかなり前から脱車で、今日ものんびりと徒歩を楽しんで来たとのこと。「若林区の道路の先は空!その空は明るく広く大きい」と、目を細めて涼やかに語ります。

矢尾氏は、昭和十七年生まれ、六十六歳。秋田県出身で、NHK入局以来、全国各地を歩き、三十一回の転居を経て、退職後、終の住処として選んだ所が、ここ仙台。仙台藩城下町で広瀬川の見える場所を探し当て、若林区石名坂に居住して十一年になると言います。「探しに探してやっと見つけたこの場所だからこそ、若林区に住んで本当にとかつたという気持ちは、今も色あせていない」とも語ってくれました。

このように若林区のすべてに対して、底知れぬ愛着をもっている矢尾氏にとっては、若林区そのものが素晴らしいテーマパークなのです。その深い思いと、さらには、度重なる転居の経験から学んだ、地域コミュニティの必要性を、「ラヂオはいらいん若林」を通して熱く区民に語りかけています。(菅井志子田 記)



チーフ紹介▼▼▼
矢尾 研二氏

年配の方から子どもたちまで 一緒に楽しく!

四名のチーフはほぼ同世代。その中で、番若い阿部勝彦さんにインタビューしました。本業は不動産関係ですが、他のボランティアがすごい。交通指導隊の副分隊長を始め計七団体の半分以上の代表を務めています。阿部氏の話は、貫して、年配の方々から子どもたちまでのふれあい、特にスポーツや合唱を通して幅広く共に楽しむ時を過ごす…。そのような場で若林地区を埋め尽くしたい、という思いが込められたものでした。

「ラヂオはいらいん若林」では、十月の「二回目の放送を担当。区民まわりの司会役ということ、他の実行委員の方々三名と、区民まわりの参加団体を紹介。さらに、十月と一月に番組を担当し、音楽関係では、合唱連盟「わかばやし」の代表として、区内に十九ある合唱団体を紹介しました。その他スポーツに関しては、特にテニス協会の理事として、仙台市では若林区がミニテニスの発信地であると紹介し、合唱共々、子どもたちから年配者まで年代を問わずに楽しめる、すばらしいものであることを強調して語ってくれました。

今回の番組作りを通して阿部氏は、「とにかく毎回楽しくて、しかしながら、区内にはまだ知らないことがいっぱいあることを思い知らされました。感慨深かったです。(勝又 記)



チーフ紹介▼▼▼
阿部 勝彦氏

一緒に「まなびごっこ」を 楽しみませんか!

生涯学習インストラクターとして活躍している大嶋さんはお仕事をリタイアした後、考え迷った末に、自分の可能性にかけてフアンリターター講師や生徒を含む全体の学習支援者として活動を始めました。現在は、毎日が東奔西走で、区内外を飛び回って活躍しています。

その活動の中心に「まなびごっこ」があります。これは、生涯学習をホリゾン「二層場所作り」(仲間作り)「自立共生」を求めて地域の皆さんと楽しく学び合う、手作りの寺子屋のようなもので、今や十六講座を開講しています。また、大嶋さんは園芸に関しても思い入れがあり、区内を緑と花いっぱいへの癒しの場に、園芸センターの利用も含めてその必要性を地域にどう発信していくか模索中とのことでした。加えて、若林区区内にある演劇工房10・BOXがどんな活動を、どのようには地域と密着しながら活性化を図っているか等を尋ね、紹介したいと語っていました。

「まなびごっこ」の講座、園芸、演劇、さらに子育て支援と、さまざまな角度から幅広く、生き甲斐を探り続けながらラジオを通じて呼びかけ発信させたいという意気込みが伝わってきます。「どなたでも参加できます。ぜひ市民センターに立ち寄り、アンテナを張り巡らして情報を収集し、「ごっこ遊び」に来てみませんか」と大嶋さんにごやか顔で誘ってくれました。(引地 記)



チーフ紹介▼▼▼
大嶋 尚志氏

地域の イベント仕掛人紹介

～獅子風流奉納めとう会～



▲愛宕神社恒例の獅子舞(元旦)



▲「めとう会」の力強い演奏

荒町市民センター祭りで威勢のいい太鼓の音が響く。愛宕を「めとう」と読んで「めとう会」、その演奏だ。会の代表、八木均さんにお話を伺う。

愛宕商栄会二十周年記念パーティを盛り上げようと、平成八年に立ち上げた。平成十年に自身の出身地網地島の獅子舞を活動に加える。練習は、月二〜三回で一回二時間。練習の合間のおしゃべりが楽しい。メンバー十人は殆ど自営業なので時間のやりくりができる。お約束は、家族が第一、仕事は第二、太鼓は第三。また、毎年四月から七月の期間、小学生対象にお祭りの太鼓二曲を指導する「めとう会ジュニア」もある。ここで育った二人が成人して「めとう会」に参加している。若い人が増えるのはいい。

夢は網地島の太鼓との交流。本物を仙台のみんなに味わってもらいたい。

「めとう会」は今、市民センターや施設の依頼を受けて演奏活動をしている。(本多 記)

知っていますか!若林区まちづくり協議会 その2

- 地域主体の市民による自主的、主体的なまちづくり推進。
- 区内の各種団体・個人をメンバーとする。
- 運営費は現在市が補助しています。

上記を前提として、わがまちの『若林区まちづくり協議会』が平成5年5月に発足しました。今回は、1年間のイベント活動を中心にお伝えします。

①7月 若林区合唱のつどい

合唱連盟「わかばやし」と共同の主催ですが実行委員会をつくり、区内の合唱サークル約20団体が参加し、歌声を通して区民が交流し楽しめる場を提供しています。



▲合唱のつどい 2008

②10月 若林区民ふるさとまつり

区民ふるさとまつりは20周年を迎え、『つなげよう、わかばやし二十歳の収穫祭(はたちのみのり)』のテーマのもと大勢の参加者とともに楽しい1日を過ごしました。

③『ラヂオはいらいん若林』ラヂオ3

詳細は2、3面をご覧ください。当まちづくり協議会の自主制作番組です。

まちづくりは、区民全員に関わってくる課題です。個々の区民として出来るまちづくりには限界があります。仙台市が提唱している『区民と区役所の協働によるまちづくり』をテーマに、若林区独自のまちづくりを進めていくのが「若林区まちづくり協議会」です。(西條 記)

④8~11月 若林区スポ・レク・フェスタ (区民ふるさとまつりと連動して開催)

区民の健康増進のために体を動かすイベントです。8月:ソフトテニス~11月:少年少女柔道まで計14種目の競技が開催されます。



▲区代表:大和少年野球クラブ
→仙台市大会も優勝



▲区民剣道祭紅白試合

⑤『はいらいん若林』の発行

今回で12号を数える『はいらいん若林』(本紙です)の取材、編集、発行をしています。区内の皆で考えてほしいことなどを取りあげています。若林のまちづくりにもっと関心を持ってもらえる紙面作りに励んでいます。

若林区まちづくり協議会

..... 事務局

若林区役所まちづくり推進課
〒984-8601 若林区保春院前丁3-1
TEL 282-1111

会報プロジェクト メンバー

リーダー 勝 又 久 雄
西 條 芳 郎
菅 井 てる み
本 多 や ゑ 子
志 子 田 喜 恵 子
引 地 よ し い

編集後記

若林区になじみの薄い中村が初めてのエントリーです。混沌と猥雑が人情と同居して、まわりとの距離感がここち良い、アイコンタクトが信じられるまち、これが若林に来ての第1感です。いわば「下町」です。多少足りないのは「活気」かな?平成27年に「まち」に「地下鉄」が来る。地下鉄が新しい住人をまちにはこんでくる。新しい「混沌」がはじまる。ここからなにかが生まれる。「前衛」だろう。他にない未来 若林区の特徴は「伝統」と「前衛」が同居する可能性に満ちた「まち」、いかがでしょうか? (中村 記)